

町田市立学校の適正規模・適正配置に関するアンケート調査（補充調査）結果（要旨）

1.調査の目的

適正規模及び適正配置を審議するうえで必要な事項のうち、2019年6月に実施したアンケート調査結果を補充する必要がある事項について追加で調査し、教員の意識を把握すること。

2.調査概要

調査名	町田市立小・中学校の教育環境に関するアンケート（補充調査）
調査対象	校長・副校長
調査対象者数	124人 うち小学校 84人 うち中学校 40人
回答者数 (回答率)	114人(91.9%) うち小学校 78人(92.8%) うち中学校 36人(90.0%)

3.主な設問

(1) 法令で定める標準を上回る学級数^{*}の学校に関する下記の設問

- ① 学校運営上の課題と対策
- ② ①のうち、最も影響の大きな学校運営上の課題
- ③ ②の課題の影響が出る学級数

(2) 適正規模となる1学年あたり学級数の範囲

※学校教育法施行規則で規定されている標準（以下「標準」）の学級数は、1校あたりの学級数が12～18学級。

4.調査結果

(1) 標準を上回る学級数の学校の課題について

【表の読み方】

※順位は「そう思う」「少し思う」を選択した回答者の割合の合計をもとに順位づけし、同率の場合には「そう思う」の割合が多い選択肢を上位としています。

※表中の「うち 19 学級以上経験者」・「うち 25 学級以上経験者」欄には、下記の内容を掲載しています。

うち 19 学級以上経験者…全体のうち、1 校あたり 19 学級以上の学校で勤務した経験を有する教員の調査結果を集計

うち 25 学級以上経験者…全体のうち、1 校あたり 25 学級以上の学校で勤務した経験を有する教員の調査結果を集計

①標準を上回る学級数の学校における運営上の課題

設問内容	回答者		1 位	2 位	3 位			
標準を上回る学級数の学校における運営上の課題	小学校	全体	特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい	91.0%	ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい	87.2%	学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい	78.2%
		うち19学級以上経験者		93.5%		90.3%		79.0%
		うち25学級以上経験者		93.5%		87.1%		83.9%
	中学校	全体	特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい	86.1%	子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい	86.1%	ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい	75.0%
		うち19学級以上経験者		96.2%	ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい	88.5%	子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい	88.5%
		うち25学級以上経験者		88.9%		77.8%		66.7%

【回答の傾向】 ※主として「全体」の回答と、「うち 19 学級以上経験者」の回答の傾向の違いを記載しています。

ア 小学校

全体と 19 学級以上経験者ともに、1 位は「施設を利用した教育活動に支障が生じやすい」、2 位は「教具が行き渡らせにくい」、3 位は「個別の活動機会を設けにくい」となっており、「施設を利用した教育活動に支障が生じやすい」が全体、19 学級以上経験者ともに 90%以上が課題だと捉えています。

イ 中学校

全体と 19 学級以上経験者ともに、「施設を利用した教育活動に支障が生じやすい」が 1 位となっており、19 学級以上経験者では、95%以上が課題だと捉えています。

②標準を上回る学級数の学校における運営上の課題のうち、最も影響の大きい課題

設問内容	回答者		1位		2位		3位	
最も影響の大きいと思った課題	小学校	全体	特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい	42.3%	教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい	14.1%	子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい	11.5%
		うち19学級以上経験者		41.9%		16.1%		14.5%
		うち25学級以上経験者		38.7%		19.4%		19.4%
	中学校	全体	特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい	33.3%	子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい	25.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい ・教員相互の連絡調整が図りにくい ・ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい 	11.1%
		うち19学級以上経験者		42.3%		19.2%		11.5%
		うち25学級以上経験者		33.3%		ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい		33.3%

【回答の傾向】※主として「全体」の回答と、「うち 19 学級以上経験者」の回答の傾向の違いを記載しています。

ア 小学校

全体と 19 学級以上経験者ともに、1 位は「施設を利用した教育活動に支障が生じやすい」、2 位は「きめ細かな指導をしにくい」、3 位は「管理職がマネジメントを行いにくい」となっています。特に、1 位の「施設を利用した教育活動に支障が生じやすい」が 2 位の「きめ細かな指導をしにくい」より全体では約 28 ポイント、19 学級以上経験者では約 25 ポイント高くなっています。

イ 中学校

全体と 19 学級以上経験者ともに、1 位は「施設を利用した教育活動に支障が生じやすい」、2 位は「管理職がマネジメントを行いにくい」、3 位は同率で「きめ細かな指導をしにくい」、「教員相互の連絡調整が図りにくい」、「教具を行き渡らせにくい」となっています。特に、1 位の「施設を利用した教育活動に支障が生じやすい」が 2 位の「管理職がマネジメントを行いにくい」より全体では約 8 ポイント、19 学級以上経験者では約 23 ポイント高くなっています。

③最も影響の大きいと思った課題の影響が出る学級数

設問内容	回答者	課題	1位		2位		3位	
最も影響の大きいと思った課題の影響が出る学級数	小学校全体	特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい	4学級超～5学級 ※1校あたり25学級～30学級	54.5%	3学級超～4学級 ※1校あたり19学級～24学級	33.3%	5学級超学級超 ※1校あたり30学級超	9.1%
		教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい		45.5%		27.3%		9.1%
		子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい		66.7%		33.3%	-	-
	中学校全体	特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい	6学級超～7学級 ※1校あたり19学級～21学級	41.7%	7学級超～8学級 ※1校あたり22学級～24学級	25.0%	9学級超～10学級 ※1校あたり28学級～30学級	8.3%
		子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい		66.7%	8学級超～9学級 ※1校あたり25学級～27学級	11.1%		11.1%
		・ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい		75.0%		25.0%		-
		・教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい		75.0%		25.0%	-	-
		・教員相互の連絡調整が図りにくい		50.0%		25.0%	わからない	25.0%

【回答の傾向】

ア 小学校

どの課題においても、1位が「4学級超～5学級」となっており、「管理職がマネジメントを行いにくい」では65%以上、「施設を利用した教育活動に支障が生じやすい」では50%以上が「4学級超～5学級」と回答しています。

イ 中学校

どの課題においても、1位が「6学級超～7学級」となっており、「管理職がマネジメントを行いにくい」では65%以上、「教員相互の連絡調整が図りにくい」では50%、「施設を利用した教育活動に支障が生じやすい」では40%以上が「6学級超～7学級」と回答しています。

【最も影響の大きいと思った課題の影響が出る学級数を選んだ理由の傾向】

ア 小学校

a 「施設を利用した教育活動に支障が生じやすい」

「4 学級超～5 学級」を選んだ理由として、「特別教室等を利用した教育活動の時間割編成が困難になる」ことや「この学級数を超える」と、体育、音楽、図工などの割り振りが難しくなる」といった時間割の調整や「4 学級を超える規模を想定して校舎や校庭、体育館が作られていない」、「体育館やプール等の施設を使用する時に、1 学年 3 学級程度の学校の児童数でも目一杯であると感じる」などの回答がありました。

b 「きめ細かな指導がしにくい」

「4 学級超～5 学級」を選んだ理由として、「授業観察をしていると、これが限界と感じる」ことや「学年の児童の把握がしづらかった」などの回答がありました。

c 「管理職がマネジメントを行いにくい」

「4 学級超～5 学級」を選んだ理由として、「学級数が増えれば増えるほど、教職員に目が届かなくなり指示が徹底しなくなりがちになる」ことや「若い教員が多い中、学校課題や学級の状況が把握しづらい」などの回答がありました。

イ 中学校

a 「施設を利用した教育活動に支障が生じやすい」

「4 学級超～5 学級」を選んだ理由として、「時間割編制などにおいて影響が出ていた」ことや「1 学年 6 学級までなら施設として対応ができた」などの回答がありました。

b 「管理職がマネジメントを行いにくい」

「4 学級超～5 学級」を選んだ理由として、「教科担当が一学年全てをみることができなくなる」ことや「教員数が 40 名前後、生徒数が 800 名前後となり管理・マネジメントが困難になりがち」などの回答がありました。

c 「きめ細かな指導がしにくい」、「教員相互の連絡調整が図りにくい」、「教具を一人一人に行き渡らせにくい」

「4 学級超～5 学級」を選んだ理由として、「きめ細かな指導がしにくい」では「過去の経験から判断」、「教員相互の連絡調整が図りにくい」では「教員の情報共有が難しくなる」、「教具を一人一人に行き渡らせにくい」では「機器が不足している」などの回答がありました。

【最も影響の大きいと思った課題への対策】

ア 小学校

a 「施設を利用した教育活動に支障が生じやすい」への対策

「合同体育、合同学年集会等を取り入れる。」、「校庭体育は、複数クラスでの使用を計画的に行う。」、「施設利用の可否が分かる表を作成し、共有する。」「学級規模に応じて特別教室数を増やすことや校庭、体育館を広くすること」、など、施設を複数の学級で利用することや施設の利用の管理を工夫すること、学級規模に応じて施設の数を増やしたり面積を広くしたりすることなどの回答がありました。

b 「きめ細かな指導がしにくい」への対策

「スクールサポートスタッフや支援員の配置・増員」、「学年会や ICT による児童の情報交換を行う」、「副担任の配置」、など、人員を増員したり教員間の細かな情報交換をしたりすることなどの回答がありました。

c 「管理職がマネジメントが行いにくい」への対策

「管理職の増員」、「主幹教諭、主任教諭の育成と活用」、「全校に副校長補佐の配置」、など、管理職の増員や管理職を補佐する人材の配置、育成、活用などの回答がありました。

イ 中学校

a 「施設を利用した教育活動に支障が生じやすい」への対策

「特別教室数を増やすことや校庭、体育館を広くすること」、「教育課程を組む際に、横断的、計画的に利用計画を立てる。」、「学校施設に合った生徒数にする」など、施設の利用の管理を工夫すること、施設の数を増やしたり面積を広くしたりすることなどの回答がありました。

b 「管理職がマネジメントが行いにくい」への対策

「管理職の増員」、「管理職同士の連携を密にする」、「主幹教諭の活用」、「副校長補佐を配置する」などの管理職の増員や管理職同士の連携の強化、主幹教諭の活用、管理職を補佐する人材の配置などの回答がありました。

c 「きめ細かな指導がしにくい」、「教員相互の連絡調整が図りにくい」、「教具を一人一人に行き渡らせにくい」への対策

「きめ細かな指導がしにくい」では「教員の増員」、「密な情報共有やそのための時間の確保」などの回答がありました。

「教員相互の連絡調整が図りにくい」では「ICT 機器の活用」、「普段からの情報共有」などの回答がありました。

「教具を一人一人に行き渡らせにくい」では「ICT 機器の拡充」、「時間割の工夫」などの回答がありました。

④適正規模となる学級数の範囲

設問内容	回答者		1位		2位		3位	
適正規模となる学級数の範囲（上限）	小学校	全体	3学級 ※1校あたり18学級	74.4%	4学級 ※1校あたり24学級	23.1%	5学級 ※1校あたり30学級	2.6%
		うち19学級以上経験者		69.4%		27.4%		3.2%
		うち25学級以上経験者		67.7%		29.0%		3.2%
	中学校	全体	5学級 ※1校あたり15学級	38.9%	4学級 ※1校あたり12学級	33.3%	6学級 ※1校あたり18学級	22.2%
		うち19学級以上経験者	4学級 ※1校あたり12学級	38.5%	5学級 ※1校あたり15学級	34.6%		19.2%
		うち25学級以上経験者	6学級 ※1校あたり18学級	44.4%	4学級 ※1校あたり12学級	33.3%	5学級 ※1校あたり15学級 8学級 ※1校あたり24学級	11.1%

【回答の傾向】※主として「全体」の回答と、「うち19学級以上経験者」の回答の傾向の違いを記載しています。

ア 小学校

全体と19学級以上経験者ともに、1位は「3学級」、2位は「4学級」、3位は「5学級」と同様の傾向が見られました。

イ 中学校

全体では1位が「5学級」、2位が「4学級」、3位が「6学級」、19学級以上経験者では1位が「4学級」、2位が「5学級」、3位が「6学級」となっています。

【適正規模となる学級数の範囲を選んだ理由の傾向】

ア 小学校

a 「3学級※1校あたり18学級」を選んだ理由

「学校施設が18学級を超える設計ではないため」や「1学年あたり3学級を超えると校庭・体育館を利用する体育の時間割などの支障が出る」などの施設面からの理由や、「教員間の連絡もとりやすい」、「1学年3学級は教員の構成上経験年数が偏ることが少ないため、バランスが保てる」、「時間割を組みやすい」、などの教育指導・学校経営面からの理由がありました。

b 「4学級※1校あたり24学級」を選んだ理由

「校庭や体育館に集める場合の収容数の限界」、「5学級以上は、特別教室や体育館の割当等に支障が出始める」などの施設面からの理由や、「学年主任が見ることのできる限界」、「24学級が同じベクトルで指導できる限度」、などの教育指導・学校経営面からの理由がありました。

イ 中学校

a 「5学級※1校あたり15学級」を選んだ理由

「教科担当が1学年全部を見る限界クラス数」、「15学級であれば、教員の配置が比較的容易」といった教育指導上・学校経営上の理由、「経験から困難さを感じる場面が増える」といった経験上の理由、「現況の学校施設から判断」といった施設上の理由がありました。

b 「4学級※1校あたり12学級」を選んだ理由

「少人数授業や体育では偶数学級の方が展開しやすい」、「教員の教科に対する配置のバランスが良い」、「管理職のマネジメント」といった教育指導上・学校経営上の理由や「施設設備の許容から考えると12学級が上限」、「少人数指導や特別支援教室、特別支援学級等の実施を踏まえ、各校の現況施設に合っている」といった、施設上の理由がありました。

c 「6学級※1校あたり18学級」を選んだ理由

「理想が4学級なので、幅をもたせた偶数学級は6学級」、「教科指導が学年の教員が中心となり進められる。」、「学年6学級・学校18学級がバランス面を考えると適当」などの教育指導上、学校経営上の理由がありました。